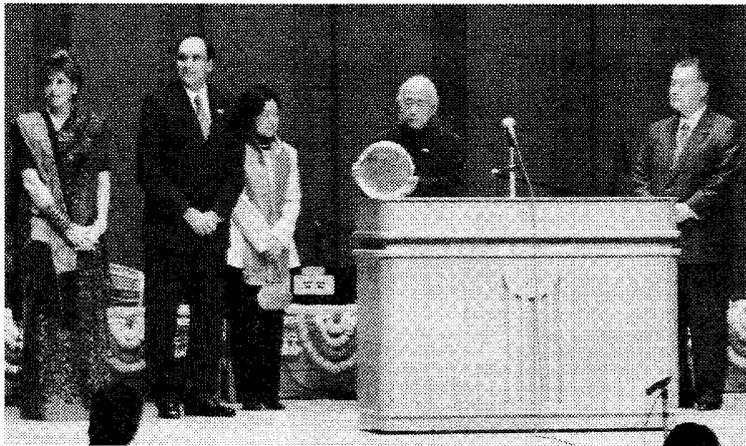


35都市で157催事開く 日本におけるインド祭閉会

日印文化協定締結五十周年の今年は「日印交流年」。年間を通じ、「仏教伝来から現代に至るま

での日印の歴史的・文化的紐帯とその発展」をテーマに両国各地で文化・芸術・学術・観光・教育

など相互理解と交流を促進するための多様な記念行事が実施された。駐日インド大使館などが中心



閉会式で森元総理（右端）から記念の額を贈られた長谷川氏（左へ同氏夫人、シン駐日インド大使夫妻）

となり日本の三十五都市で百五十七のイベントが開催された「日本におけるインド祭」を締めくくる閉会式が十一日、東京・四谷の紀尾井ホールで行なわれ、ヘーマント・クリシャン・シン駐日インド大使、元内閣総理大臣・日印協会会長の森喜朗氏をはじめ約五百人の来賓らが参集した。

シン駐日大使が一年間の成果と関係者への感謝の言葉を述べた後、主賓として森元総理が挨拶。首相在任中の二〇〇〇年、当時のバジパイ首相との首脳会談でグローバル・パートナーシップを構築した森氏は、両国の宗教・文化面における古来のきずなや、自由・民主主義などの共通の価値観、また近年は政治や経済面でも両国関係の進展が見られることに言及し、「両国がますます協力し合い、日印だけではなくアジア、世界との協力にも貢献していくべき」と強調した。

また、日本におけるインド祭の開催に全面的に貢献したNPO法人「日印交流を盛り上げる会」代表でミティラー美術館館長の長谷川時夫氏に、シン大使と森氏からシヨールと記念の額が贈られた。

この後、インドの著名な舞踊家クムディニ・ラキア氏の演出により、北インドの伝統舞踊、カタククおよびラージャースターン舞踊の特別公演が行なわれ、色とりどりの民族衣装をまとったダンサーたちの幻想的な踊りや民族音楽の音色が参集者を魅了した。